

詩篇 120 篇

都上りの歌

- 1 苦しみのうちに、私が主に呼ばわると、主は私に答えられた。
- 2 主よ。私を偽りのくちびる、欺きの舌から、救い出してください。
- 3 欺きの舌よ。おまえに何が与えられ、おまえに何が加えられるのか。
- 4 勇士の鋭い矢、それに、えにしだの熱い炭火だ。
- 5 ああ、哀れな私よ。メシエクに寄留し、ケダルの天幕で暮らすとは。
- 6 私は、久しく、平和を憎む者とともに住んでいた。
- 7 私は平和を――、私が話すと、彼らは戦いを望むのだ。

大長篇だった 119 篇を終え、今年は 120 篇からスタートします。表題に「都上りの歌」と付けられています。このテーマは 134 篇まで続き、離散のユダヤ人がエルサレム巡礼の際に歌った詩群と考えられます。イスラエルの成人男性はエルサレムで祝われる三大祭（過越祭、仮庵祭、七週祭）に参加することが定められていたので（申命 16:16）、人々はその時期に犠牲を携えて上って行きました。

個々の詩は必ずしも巡礼のために作られたものではなく、内容的に「都上り」に適合する部分が含まれているものが選択されたようです。分類としては以下ようになります。

- 120 篇：カナンの地の外に住む者の歌
- 121 篇：巡礼の旅の歌
- 122 篇：エルサレム神殿到着の歌
- 123-133 篇：祭で歌われる祈り
- 134 篇：帰路に着く者への祝福の祈り

120 篇は「苦しみのうちに、私が主に呼ばわると、主は私に答えられた」というフレーズで始まります。本篇の特徴は、語られた事柄の内容が次の節で説明されていくということで、2 節を見ると詩人が何によって苦しんでいたかが分かります。それは「偽りのくちびる」「欺きの舌」であり、敵対者の嘘によって詩人は何らかの不利益を被っていたのでしょう。偽りの証言は十戒で禁じられているところですが（第九戒）、イスラエル史の中では支配者の偽証によって庶民が殺された例がそこかしこに見られます。一例としては、I 列王 21 章の「ナボテの畑」をめぐる事件が挙げられるでしょう。アハブ王は隣接するナボテのぶどう畑が欲しくて交渉しましたが、先祖からの譲りの土地を渡すことはできないと断られ、逆上した王妃イゼベルの偽証によってナボテは冒瀆罪で処刑されました。このような「あってはならないこと」は現代でも形を変えて行なわれているでしょう。

本篇の詩人も敵対者の偽証によって危険な目に遭っていたようです。3～4 節は 2 節を受け、「欺きの舌」に対して神は何をなさるか、「曲がった者には、ねじ曲げる方」である神（詩篇 18:26）がどのように

対処されるかが語られていきます。「**勇士の鋭い矢**」とは「神の真理」、闇に葬られたはずの事件の真相が後から明るみに出されていくことです。「**えにしだの熱い炭火**」とは、落葉性の低木であるエニシダの根っこからよく燃えて長持ちする木炭が作れるので、偽りを語る者への長期的な裁きを表していると思われま

5節では語調が変わり、「**ああ、哀れな私よ。メシエクに寄留し、ケダルの天幕で暮らすとは**」という嘆き（創世 10:2）が綴られていきます。「**メシエク**」とは、黒海とカスピ海の間（北方コーカサス地方）に住むヤペテの子孫。「**ケダル**」とは、南方アラビア砂漠の種族（創世 25:13）。いずれも野蛮な民族とされますが、詩人がどこへ行っても安住の地がないことを表しているのか、敵対者を指す比喻なのかは分かりません。いずれにせよ、この異邦の地の名前が出てきたところから、離散の民の嘆きの詩に加えられたのでしょ

「**私は、久しく、平和を憎む者とともに住んでいた**」（6節）、「**私は平和を――、私が話すと、彼らは戦いを望む**」（7節）とあるように、安寧を求める詩人に対して常に争いを仕掛けてくる者がいるようです。確かに、性質として争い好きな人はいるものです。また、現代世界にも戦争を起こさなくては生きていけない人々があり、世界中に争いの火種を蒔いては消費期限の近い武器を売り、更に復興支援という名の下に次の金儲けへと進んでいきます。庶民は安定した生活を求めますが、そうはさせない人々がいるのです。

このような不安定な世の中に生きる私たちですが、信仰者の内には誰も妨げることのできない休み場があります。それは「心のエルサレム」「魂の神殿」であるイエス・キリストです。主イエスご自身も争いの世に生まれましたが、周囲の状況が如何に困難であろうとも、父なる神様との揺るがぬ関係のうちに歩み抜かれました。そして、主イエスに従うすべての人と共にまし、その人の内で神殿となって、神との全き関係を構築していただきます。私たちにとってのエルサレム巡礼は、日曜日の礼拝だけでなく、日々の祈りの中で実現しているのです。